

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	39	学校名	東濃高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	多様な価値観や個性、文化を持つ生徒が共に育ち学ぶ高校として主体的な学びと地域に根差した教育活動を通して次代を担い、ふるさとに貢献できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、自ら考え、判断し適切な行動ができる生徒</li> <li>・多様な価値観、個性、文化を認め、互いを尊重して行動できる生徒</li> <li>・変化する社会に適応して、地域に信頼され、貢献できる生徒</li> </ul>	
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合わせた主体的・対話的で深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と授業実践</li> <li>・多様な価値観や個性を持つ生徒どうしの学校生活を通して、互いを尊重し互いに認めあいながら、自己肯定感を伸長することのできる人間性の育成</li> <li>・地域や外部と協働し、すべての特別活動、部活動や教科学習を通じて、地域の課題を発見・解決できる「主体的・対話的で深い学び」や「探究的学び」の推進</li> </ul>	
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が身に付いており、ルール・マナーが守れる生徒</li> <li>・多様な価値観を認め合い、他者を尊重して主体的に学べる生徒</li> <li>・将来、社会的に自立するために、自己の進路実現に向け意欲的に努力することができる生徒</li> </ul>	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着に向け、生徒が主体的に学ぶ「わかる授業」と個に応じた学習支援を一層推進すること。</li> <li>・基本的生活習慣や規範意識だけでなく、社会で生きるためのコミュニケーション能力やソーシャルスキルを身に付けさせること。</li> <li>・自己肯定感や自己有用感を育てるため、校外外において生徒が活躍する場をさらに設けること。</li> <li>・全校で6割を超える「外国につながる生徒」へのキャリア教育を含めた総合的な支援をより一層進めるとともに、保護者の深い理解と協力を得ること。</li> <li>・働き方改革を推進するため、分掌業務の再構築及び適材適所の人員配置を行うとともに、教員研修等の充実と生徒情報や指導についての共通理解を図ること。</li> </ul>		
教育指導の重点	領域・分野	の具体的な重点目標	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの学力の向上とすべての生徒が学べるインクルーシブな学習環境を整えることによって、個に応じた学習支援を行います。</li> <li>・ICT機器(タブレット)の活用や少人数教育に加えて、「ふるさと教育」の推進等により、生徒の「探究的な学び」を支援します。</li> </ul>	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を進め、キャリア教育を含めた総合的な支援を推進し、社会で生きるためのコミュニケーション能力を育成します。</li> <li>・自己のあり方生き方を考えさせ、勤労観・職業観を育てるための活動を計画的に配置し、進路希望の実現を目指します。</li> </ul>	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値観を認め、他者の立場を理解し、共感する力を育て、社会に出て自立できる生徒を育てます。</li> <li>・幅広いものの見方や奉仕の精神、健康でたくましい心身、規律ある生活態度を育成します。</li> </ul>	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に努め、教職員が健康でいきいきと生徒と向き合える教育環境を整えるとともに、地域から信頼される学校づくりを推進します。</li> <li>・スクールミッションに掲げる本校の役割を踏まえて、将来への明確なビジョンをもち、あらゆる教育活動を支える校内体制を構築します。</li> </ul>	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合評価 A.B.C.D
学習指導	「授業のユニバーサルデザイン化」や「評価の可視化」により、学習内容や到達目標を明確化し、生徒が主体的に取り組むことのできる授業を実践します。	施策Ⅱ-8	生徒の授業評価に基づいた教員の授業改善が図れたか。生徒及び教員による授業評価(肯定的評価80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価を年1回実施して、授業改善につなげた。昨年との変更点は全講座で実施したこと。各教科とも肯定的評価は概ね80%以上。</li> <li>・1年生は「基礎力診断テスト」と「到達度テスト」を年1回ずつ、2・3年生は「到達度テスト」を年2回実施して、その取り組みを評価した。</li> <li>・公開授業週間を年1回(11月)実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末を利用して課題を配信することができ、理解度に応じたフォローアップ課題では半数以上の生徒が取り組んだこともあり、基礎基本の定着につながったと考えられる。</li> <li>○探究的な視点を取り入れたカリキュラム(類型を含む)と学校設定科目の見直しを図る。</li> <li>○「地域探究類型」「生活類型」に加え「ものづくり類型」でも外部人材の活用に取り組みことができ、ふるさと教育の推進につながった。</li> <li>○日本語履修生は、日本語能力向上に対して、高い意識をもって取り組んだ。</li> <li>○「高等学校における通級による指導」において、社会性を高める学習に取り組んだ。</li> <li>▲授業評価に基づいた授業改善や、観測別評価の評価方法について教科内でより進める必要がある。</li> </ul>	B
	タブレット活用(ICT利用)・校内研修・授業公開・授業アンケートなどを通して授業改善に努め、生徒が主体的に取り組める、わかる授業を展開します。	施策Ⅱ-9	アンケート実施(生徒の満足度80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御嵩町との連携等で、ふるさと教育を推進。生徒の肯定的評価は70%程度であった。</li> <li>・地域探究類型の授業において、フィールドワーク活動を積極的に導入した。生徒の評価は概ね良好。</li> </ul>			
	フィールドワーク活動や、家庭科選択科目での「みたく華ずし」体験など、地元御嵩町との連携や外部人材の活用により、ふるさと教育を推進し、地域から信頼される学校づくりと、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。	施策Ⅰ-4	生徒の授業評価に基づいた教員の授業改善が図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語履修生(2・3年生)の日本語能力を測る検定試験(JLPT)受験者数が大幅に増加した。今年度は2名が合格(N1:1名、N3:1名)。</li> </ul>			
進路指導	演劇表現ワークショップやキャリア教育プログラムをはじめ、学校生活の様々な場面の中でコミュニケーション能力を培い、他者との望ましい人間関係の構築を促します。	施策Ⅰ-1	講師等への意見聴取。生徒対象アンケート(肯定的評価80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事終了後、講師等から高い評価があった。</li> <li>・各行事終了後、生徒対象アンケートで肯定的評価は80%を超えた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各行事を計画的に実施することができた。</li> <li>○各学年における進路行事を通して、生徒の進路決定の一助となった。</li> <li>○行事に対する生徒の取り組みは良好であった。</li> <li>○全体指導と個に応じた指導をバランスよく行うことができた。</li> <li>○御嵩町や諸機関との連携による行事が増えた。</li> <li>○入学前に必要となる費用についての情報を、折に触れて保護者に伝えたことで、大学に進学する生徒が増えた。次年度も同様の取り組みを行う。</li> <li>▲進路行事の精選を含めて、3年間の見直しをもったキャリア教育の構築及び充実を図る。</li> </ul>	B
	類型や選択科目により多様な進路希望に応えるとともに、進路ガイダンスを通じて自己のキャリア形成を支援します。	施策Ⅳ-23	学校評価アンケート(肯定的評価80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び保護者・学校運営協議会委員アンケートの進路指導に関する項目全てで、肯定的な意見が得られた。(生徒80%以上、保護者等90%以上)</li> </ul>			
	御嵩町や国際たくみアカデミー等との連携により、進路目標実現に向けてのスキルを習得させるとともに、正しい勤労観・職業観を育成します。	施策Ⅱ-13	進路講座の実施(実施回数10回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御嵩町や諸機関との連携により、各種進路講座を10回以上実施した。</li> </ul>			
生徒指導	一人一人が夢をもち、進路目標の実現に向けて意欲をもって学習できるように、3年間を見通したキャリア教育を実践します。	施策Ⅱ-13	充実したキャリア教育を実施するとともに、取り組みにつながりをもたせられたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識を向上させるため、分野別講座、企業見学会、ライフプラン講座、懇談期間中の進路相談会、保護者進路説明会等を開催した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「『あじみ』のできる学校」に関して、挨拶励行について大変良好であった。</li> <li>○学年を中心として、生徒に定期的に声かけをすることで、概ね落ち着いた学校生活を送ることができた。</li> <li>○学年会や保健室、定期的なアンケート結果の共有を通じて、生徒の抱える悩みの早期発見や教育相談との連携を迅速に行うことができた。</li> <li>○ボランティア活動への参加が良好であった。</li> <li>▲時間を守る指導では、遅刻について、改善がみられた部分はあったが、大幅な減少までは至らなかった。</li> <li>▲身なりを正す指導では服装の乱れが一部でみられるため、粘り強く指導を続けていく。</li> <li>▲地域の方々から登下校中のマナー改善を求める声をいただいた。</li> </ul>	B
	「『あじみ』のできる学校」をキャッチフレーズに、挨拶の励行、時間を守る行動、身なりを正すことに重点を置くとともにマナーの向上を図り、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指す。	施策Ⅲ-19	安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。学校評価アンケート(肯定的評価80%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な声かけや学年で身なり点検を実施した。</li> <li>・「『あじみ』のできる学校」では、生徒・学校関係者ともに肯定的な意見が得られた。(生徒80%以上、保護者等90%以上)</li> </ul>			
	部活動やボランティアなど校外の活動を充実させ、自己肯定感を育てながら、活気ある学校づくりと思いやりあふれる心の育成につなげます。	施策Ⅰ-7	ボランティア参加人数(延べ100人以上の参加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動を、昨年度の年1回から年2回に増やし、対象生徒を変えて実施したところ、積極的に参加する生徒が増加した。生徒の評価は概ね良好。</li> </ul>			
学校経営	全職員が共通理解のもと、すべての教育活動を通して公平かつぶれない生徒支援を目指す。	施策Ⅰ-2	生徒対象アンケート、保護者からの意見(肯定的評価の有無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び保護者・学校運営協議会委員アンケートの生徒指導に関する項目全てで、肯定的な意見が得られた。(生徒80%以上、保護者等90%以上)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各職員への声かけや指導を進める中で、時間外勤務時間が月45時間を超える職員数が減少した。</li> <li>○センター研修や校内研修、情報交換等によって、職員も自己研鑽に努めた。</li> <li>○教務部が中心となって、探究的な視点を取り入れたカリキュラム(類型を含む)と学校設定科目の見直しについて、継続的な運営となった。</li> <li>○Forms等の利用により、生徒・保護者・教職員の声を、迅速かつ多くとらえることができた。</li> <li>▲ストレスチェックやハラスメント調査を行う中で、疲労蓄積度自己診断チェックリストで総合判定6以上の職員を把握することができたため、その防止策について検討及び実施を進める。</li> <li>▲ホームページの更新を絶えず行う。</li> </ul>	A
	心身の健康管理を自分で適切に行うことができるとともに、規律ある高校生活と社会の一員としてのマナーを身に付けられるような生徒支援を推進します。	施策Ⅰ-1	安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室来室者への保健指導や健康相談に加えて、健康診断の結果からの受診勧告を行った。職員対象の普通救命講習を実施した。</li> </ul>			
	出退勤管理システム等の活用により教職員の適正な勤務時間の管理を行い、過重な勤務状況を把握し、職員への声かけや指導を徹底します。また、定時退庁日や「ノー残業デー」の徹底や計画的な休暇の取得促進により、教職員の業務の効率化や健康管理への意識を高めます。	施策Ⅳ-27	業務の効率化を図れたか。時間外勤務時間が月45時間を超える職員数(前年比50%減→基本目標0人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務時間が月45時間を超える職員数は12月現在、前年比63%減であった。(延べ6名)</li> <li>・疲労蓄積度自己診断チェックリストの2回の実施で、総合判定点数6以上の職員は延べ3人(第1回:1人、第2回:2人)で、昨年より微増。</li> <li>・「ノー残業デー」を計画的に設定した。</li> </ul>			
授業の公開やホームページなどを通して、本校の教育活動が保護者や地域の方々さらに理解されるような広報活動に努めます。	施策Ⅳ-20	ホームページのアクセス数を増やせたか。中学校との情報交換を行ったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教育週間(11月)に授業公開を行った。</li> <li>・ホームページの学校紹介ページの記事(トピックス)を掲載し、地域への情報発信を行った。</li> </ul>				
教職員の資質向上を目指し、教職員自らが研修等の機会を積極的に活用し、自己研鑽の中で、幅広い教養と高い専門性をもち、愛情と使命感にあふれる教育者の育成を目指す。	施策Ⅳ-26	前年度と同等かそれを越える教職員によるセンター研修の受講。教職員による、研修の機会の増加。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員によるセンター研修の受講者が延べ50人を超え、前年度と同等程度の受講があった。</li> <li>・校内において、外国につながる生徒連絡会や教育相談、資質向上などの職員研修を実施した。</li> </ul>				

<p><b>来年度に向けての改善方策等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器や学習支援サービス(キャリアナビ、一般常識&amp;SPI等)を積極的に活用して、「分かる授業」や「主体的で対話的な深い学びを体現する授業」の研究を継続し、観測別評価のあり方を検討をしつつ、生徒の学力の伸長や主体的に学ぶ態度の育成を図る。</li> <li>・公開授業について、探究的な視点にもフォーカスして、今年度とは形式を変更して実施する。(回数、実施方法等)</li> <li>・カリキュラム編成も含めて、探究的な視点を取り入れた授業の在り方などについて、互いに研鑽を積める体制を整えていく。</li> <li>・「探究的な学び」を取り入れ、入学から卒業後の進路実現まで、見直しをもったキャリア教育の構築について見直し、改善する。</li> <li>・生徒指導について、職員一人ひとりの共通理解を深め、粘り強い指導に努め、基本的生活習慣の改善を進めていく。</li> <li>・職員教育相談スキルを向上させ、生徒がより相談しやすい体制を整えるとともに、生徒情報を職員間で共有できるようにする。</li> <li>・指導法の工夫によって、日本語履修生への日本語能力向上への学習意欲と実際の能力をこれまで以上に高め、日本語能力を測る検定試験受験者数の受率率および合格者数の増加を目指す。</li> <li>・「高等学校における通級による指導」において、今後も「自走できる」指導手法を目指して研究を重ねていく。</li> <li>・業務の効率化を図るため、更なるICT化を進めるとともに、分掌業務の再構築を行い、適材適所で人員を配置する。</li> <li>・「スクールミッション」や「スクールポリシー」の周知について、方法を検討し、機会をとらえて浸透させていく。</li> <li>・職員一人ひとりの業務の見直しを行い、業務の代行や削減を促し、また計画的に業務を進められるよう配慮する。加えて職員自身が意識して働き方改革に取り組むとともに、ライフワークバランスの充実を図っていく。</li> </ul>	<p>実施日：令和8年1月15日</p> <p><b>学校関係者評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「分かる授業」の取り組みについて、授業への評価が高いことは、教職員の努力の成果だと考えられる。次年度以降も、ICT機器や学習支援サービス等を有効に活用し、「分かる授業」の研究を進めてほしい。</li> <li>・ICT機器をうまく活用しており、授業における工夫がみられる。生徒の学力の伸長や主体的に学ぶ態度の育成を更に図ってほしい。</li> <li>・昨年度の反省から、入学前に必要となる費用についての情報を折に触れて保護者に伝えたことで、大学に進学する生徒が増えたと聞く。早期からの進路情報提供やキャリア形成を促すような指導を更に進めてほしい。</li> <li>・高校生のキャリア教育はとて大切である。御嵩町や諸機関との連携を深めつつ、話しやすい環境をつくることや、他の生徒と情報を共有することでコミュニケーション能力を高め、進路目標がもてるようになること。</li> <li>・「『あじみ』のできる学校」に関して、気持ちよく挨拶ができる生徒が多く、概ね落ち着いた学校生活を送ることができているのではないかと、引き続き、職員一人ひとりの共通理解を深め、粘り強い指導に努めてほしい。</li> <li>・ボランティアは、自己肯定感を感じる機会や進路実現に向けてのアピールにもなるので、ぜひ続けてほしい。</li> <li>・地域にはもっと東濃高校に貢献したいと思っている方が多くみえる。学校の情報を積極的に発信すると協力が得られると思う。</li> <li>・これからは、地域貢献ができる人材が求められている。高校生が実際に現場でどのように活躍していくか。そのためには、地域の協力が必要であり、本校の強みでもある英語の学習や、探究的な学びが次につながる機会になればよいと思う。</li> <li>・先生が元気であれば、生徒も元気になると思う。教職員の働き方改革を進め、笑顔で生徒に接することができるようにしてほしい。</li> </ul>	<p>実施日：令和8年2月5日</p>
---	--	---------------------